

# 日進市立小中学校 部活動地域移行検討委員会

## 第3回会議 資料

令和6年2月20日  
日進市教育委員会



- 1 前回検討委員会の内容について
- 2 小学校部活動の廃止時期について
- 3 放課後活動アンケートについて
- 4 令和6年度の実証事業（予定）について
- 5 中学校部活動の方向性について
- 6 今後のスケジュール



# 1 前回検討委員会の内容について

## 【第2回会議の主な内容】

### ○ 小学校部活動の現状について

- ・全国的には実施する小学校は少なく、比較的盛んな地域においても廃止を含めた検討が進められている。
- ・近隣市町においても小学校部活動は廃止や縮小が進められている。
- ・部活動指導や顧問の決定が困難な状況がある。
- ・活動時間は週3日、春夏は1時間程度、秋冬は30分程度が多い。

### ○ 日進市の小学校部活動のあり方について

- ・教職員の負担軽減を考慮した場合、小学校部活動廃止の検討が必要。
- ・児童の体験活動等を確保するため、市内スポーツ・文化芸術活動団体等の周知、放課後子ども教室の拡充を進める。

### ○ 部活動地域移行実証事業

- ・市内中学校吹奏楽部員の希望者を対象に実証事業（吹奏楽部）を実施している。

○全国的な状況や県内の流れを鑑みて、教職員の負担軽減を図るために小学校部活動の廃止はやむを得ない。

○子どもたちの活動機会確保のため、市内スポーツ・文化芸術活動団体等の周知、放課後子ども教室の拡充を進める。

○各団体は、子どもの体験機会の確保のために小学生向け講座の拡充や所属団体への協力呼びかけを検討する。

○保護者や児童への影響が大きいため、廃止するのであれば周知を早い時期から行う必要がある。



**小学校部活動については廃止する。時期については事務局で検討し提案。**

## 2 小学校部活動の廃止時期について

廃止時期	利点	課題
令和5年度末 (令和6年3月末)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顧問の決定や部活動指導、大会運営等の教職員の負担軽減を早期に解消できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な周知が困難</li> <li>・急に部活動が廃止されることで、児童が新たな活動の場所を探せない</li> <li>・新たな体験活動等の準備が困難</li> </ul>
令和6年度末 (令和7年3月末)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定の周知期間を設けることができる</li> <li>・教職員も1年後に廃止することが明確となり、教職員の負担軽減の意識が高まる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間部活動に参加するつもりでの現4年生の児童の気持ちを汲むことができない</li> <li>・市内団体の紹介は開始できるが、放課後子ども教室の準備期間が短く、児童の体験機会の確保が不十分</li> </ul>
令和7年度末 (令和8年3月末)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な周知期間と対応策の準備期間を設けることができる</li> <li>・拡充予定の放課後子ども教室の開始時期に合わせることができる</li> <li>・現在部活動に参加している児童が、卒業年次まで部活動に参加することができる</li> <li>・R6年度の新4年生へ廃止時期を明確に示したうえで参加募集をかけることが可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顧問の決定や部活動指導、大会運営などの教職員の負担が2年間継続することになる</li> </ul>

### 懸念点

- 廃止が早すぎる場合は、周知や活動機会提供の準備期間が不足する
- 廃止が遅い場合には、教職員の負担が継続し、働き方改革が進展しない

## 2 小学校部活動の廃止時期について

### 教職員の負担軽減

- ・小学校部活動指導や顧問の決定、大会の運営等、教職員は部活動に係る様々な業務を担っており負担となっている
- ・小学校によっては、顧問のなり手がなく、部活動の継続自体が困難になっている種目がある

令和5年度末、令和6年度末の廃止が望ましい

### 現活動機会確保と周知期間

- ・現在部活動に参加している児童には、6年生まで活動する機会に配慮する必要がある
- ・部活動に期待している新4年生にも一定期間部活動が行える機会を確保できる
- ・児童や保護者の理解を得られるよう十分な周知期間が必要である

令和7年度末の廃止が望ましい

### 体験活動機会の確保

- ・市内の様々な団体による活動や講座の紹介、放課後子ども教室の内容充実の準備には一定期間が必要で、契約の更新時期等を考慮する必要がある

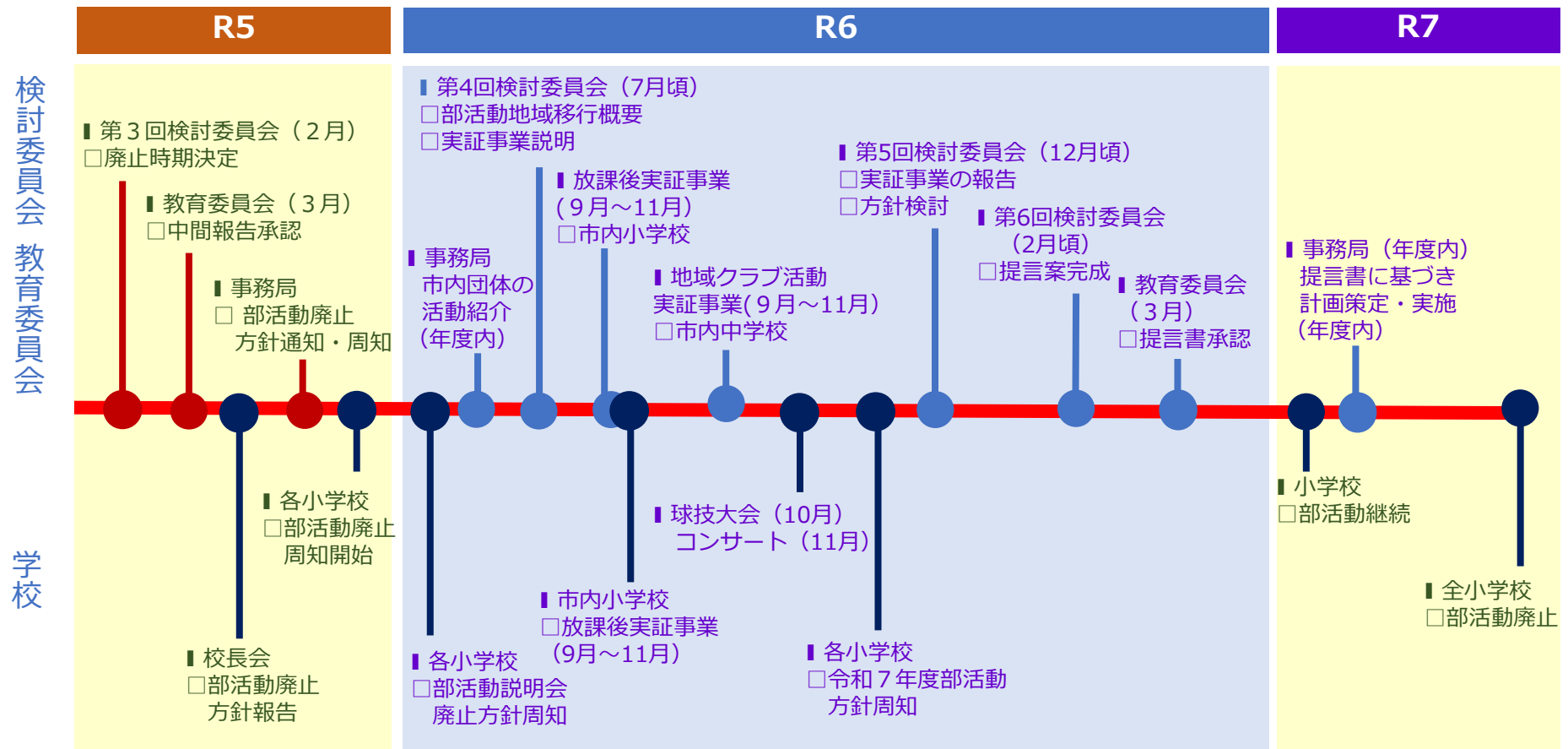
令和7年度末の廃止が望ましい

### 廃止時期の事務局案

様々な体験活動の機会の確保や周知を十分に行うため、  
小学校部活動の廃止時期は原則として令和7年度末（令和8年3月末）とする

## 2 小学校部活動の廃止時期について

### 小学校部活動終了に向けたスケジュール



### 3 放課後活動アンケートについて

① 概要

調査期間 令和5年12月28日（木）～令和6年1月19日（金）

対象者 市内小学校の児童（1～6年生）及び保護者

② 回答率

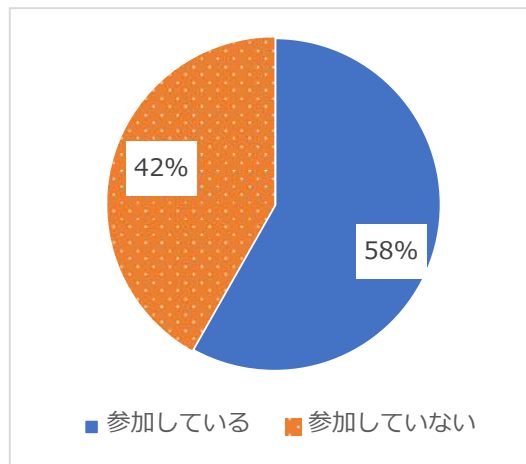
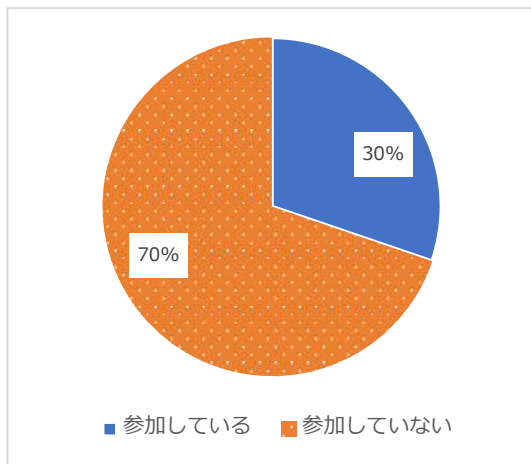
	児童数（※1）	回答数	回答率
1年生	1,041人	420人	40.3%
2年生	1,109人	436人	39.3%
3年生	1,021人	441人	43.2%
4年生	987人	467人	47.3%
5年生	1,034人	500人	48.4%
6年生	1,119人	435人	38.9%
無回答	-	7人	-
合計	6,311人	2,706人	42.9%

（※1）児童数は令和6年1月現在の数字

### 3 放課後活動アンケートについて

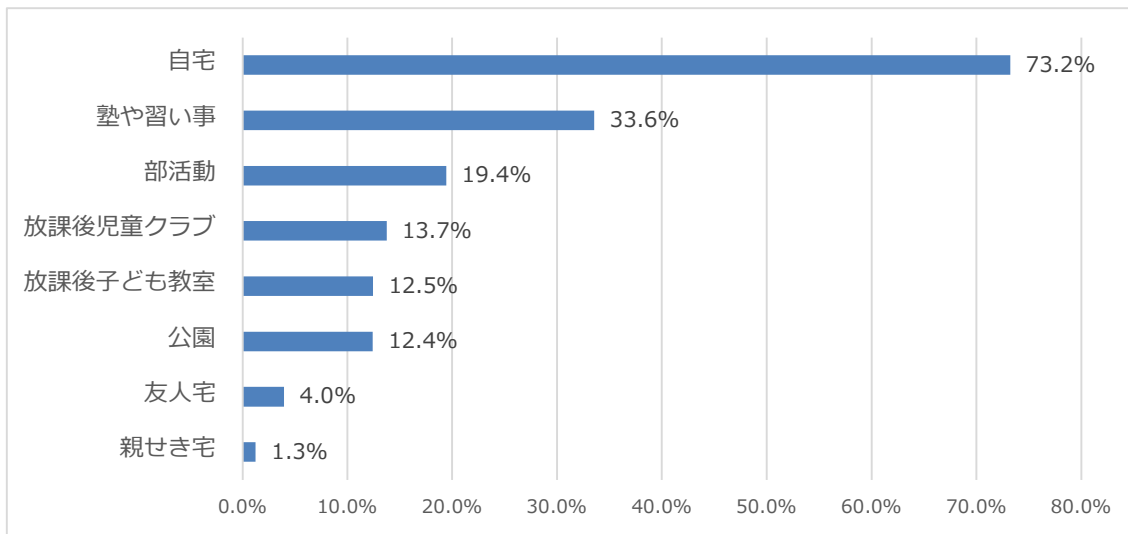
Q：現在、お子様は部活動に参加していますか

※4～6年生のみ抜粋（回答数 1,402人）



・全学年では、30%の児童が部活動に参加しています。  
・部活動に参加可能な学年の**58%の児童**が部活動に参加しています。

Q：放課後は主にどこで過ごしていますか（2つまで回答可）

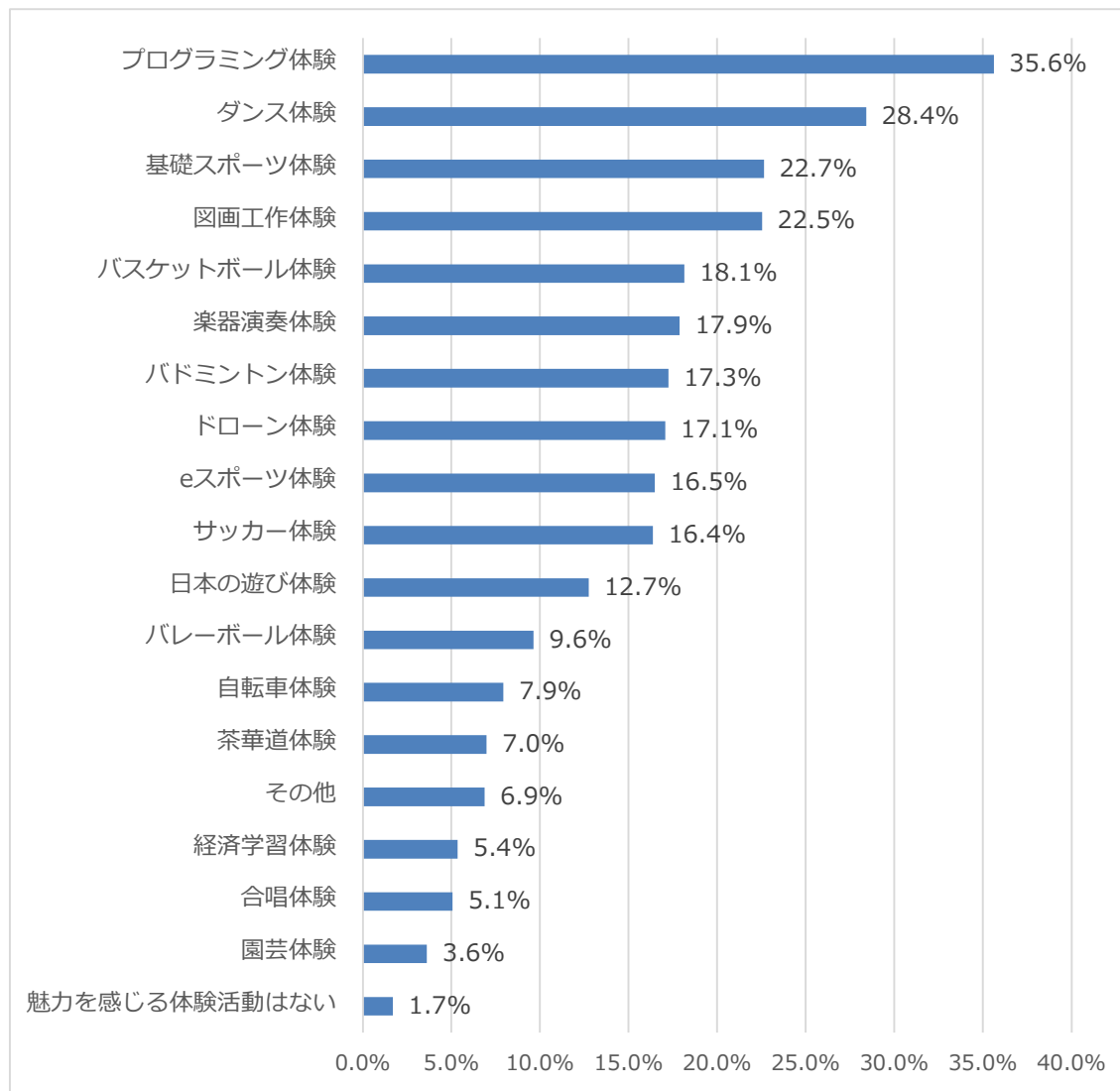


・放課後に過ごす主な場所は、「自宅」が73.2%を占めます。  
・放課後児童クラブや放課後子ども教室は12～13%ですが、低学年ほど利用者が多い傾向にあります。



### 3 放課後活動アンケートについて

Q：放課後に体験活動を行う場合、どのような内容を希望しますか



・希望の多い体験活動には「プログラミング体験」、「ダンス体験」、「基礎スポーツ体験」、「図画工作体験」などの、学校の部活動にはない体験活動が上位を占めます。

・低学年／高学年によって希望する体験活動には傾向がみられます。

《その他意見》

・運動系

野球／テニス／ドッジボール／卓球／剣道／陸上／ソフトテニス／ソフトボール／ラグビー／空手 など

・文化系

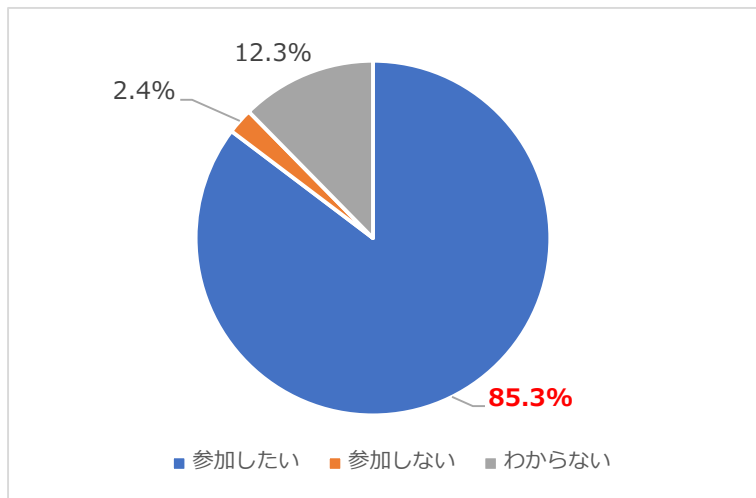
将棋／英会話（語学）／料理やお菓子作り／ゲーム／ラジコン など

・その他

ボランティア活動 など

### 3 放課後活動アンケートについて

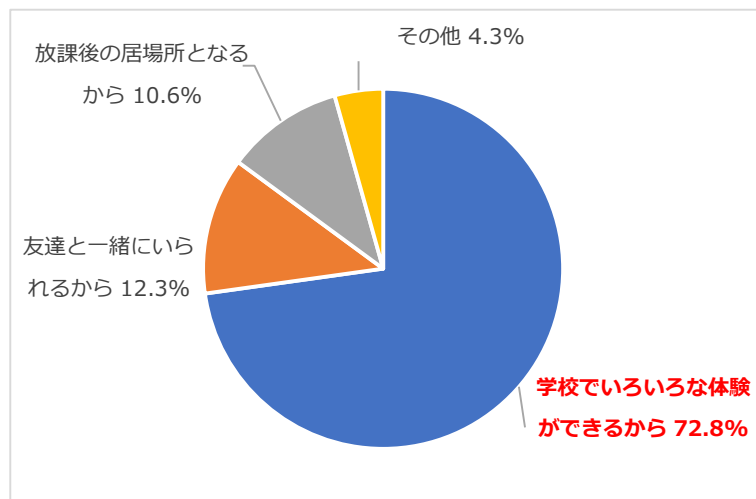
Q：体験活動への参加について



- ・全体の85.3%が体験活動に参加したいと回答しています。
- ・学年別では、低学年ほど参加を希望する児童が多い傾向がみられます。

Q：参加したいと答えた理由は何ですか

※体験活動へ「参加したい」と回答人のみ回答（回答数 2,308人）



- ・全体の72.8%が学校でいろいろな体験ができるからと回答しています。

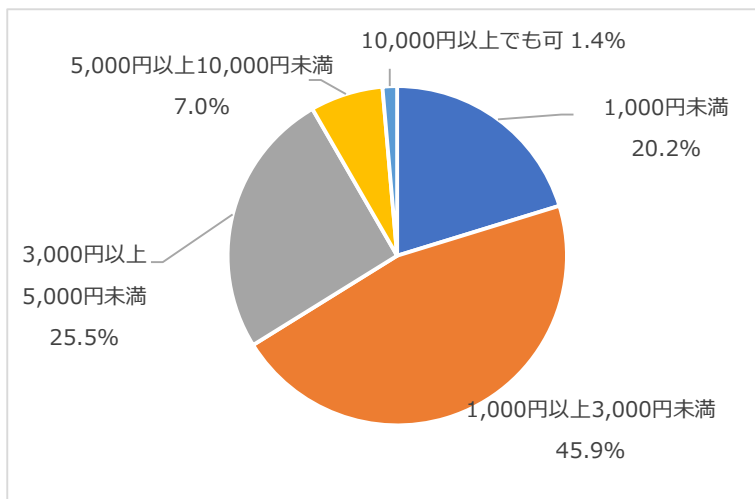
《その他意見》

- ・楽しそうだから／面白そうだから／興味があるから
- ・自分のやりたいことが見つかるかもしれないから
- ・将来的に役立つ経験だと思うから
- ・運動不足の解消／好きなスポーツを上達させたい
- ・学年関係なく人間関係を築くことができる など

### 3 放課後活動アンケートについて

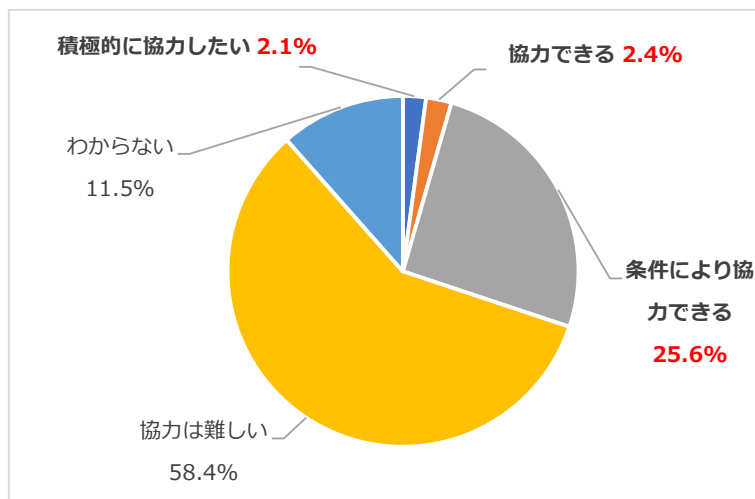
Q : 月額負担についてお聞かせください

※体験活動へ「参加したい」「わからない」と回答者のみ回答（回答数 2,642人）



・月額負担については、「1,000円以上3,000円未満」が45.9%を占めています。

Q : 部活動指導者への協力について



・「積極的に協力したい」、「協力できる」、「条件により協力できる」割合は30.1%を占めます。地域の指導者が潜在的に一定数いることが分かります。

### 3 放課後活動アンケートについて

#### 【アンケート結果からわかること】

##### ○ 児童の居場所の上位は「自宅」

- ・アンケート結果からは、児童の多くが放課後は自宅で過ごしていることがわかる。
- ・塾や習い事も多く、部活動への参加や放課後子ども教室、放課後児童クラブと続くが、塾や習い事は高学年、放課後子ども教室などは低学年が多い傾向がある。

##### ○ 放課後子ども教室などの体験活動で希望する種目

- ・プログラミング体験・ダンス体験・基礎スポーツ体験、図画工作体験などが上位を占めており、学校の授業に取り入れられている種目に人気がある。放課後子ども教室の内容を拡充するにあたっては、対象学年や希望を考慮して内容を決定する必要がある。

##### ○ 様々な体験活動を希望する児童は多い

- ・アンケートに回答した児童や保護者の多くは、体験活動への参加を希望しており、内容によって多くの参加者が見込まれる。また、参加希望の理由では、学校でいろいろな体験ができるが上位を占めている。

##### ○ 費用負担では3,000円以下が多数を占める


- ・費用負担では、月額3,000円以下を希望する人が多く、3,000円以上5,000円未満も一定数いる。種目によって経費が異なるため、種目ごとの金額設定を検討する必要がある。また、非課税世帯等への配慮を検討する必要がある。

##### ○ 部活動（体験活動）指導者への協力者は30%


- ・何らかの形で協力できると回答した人が3割程度となっており、時間帯や報酬等の条件により、地域からの協力を得ることができる。様々な種目を実施するためには、より多くの協力者が必要であり、地域の団体、個人からの協力をお願いする必要がある。

## 4 令和6年度の実証事業について

### 小学校放課後活動実証事業（仮称）

対象者	小学校高学年の児童	
実施場所	特定の小学校のグラウンド・体育館・特別教室等	
実施時期	9月以降(3か月間程度・週2回程度)	
実施時間	放課後2時間程度	
利用料金	種目により設定	
実施種目 (予定)	スポーツ・文化芸術・学び体験（工作・実験等）など ※アンケート結果を参考に種目を検討	

### 中学校地域クラブ活動実証事業（仮称）

対象者	中学校1～3年生の生徒	
実施場所	特定の中学校のグラウンド・体育館・特別教室等	
実施日	9月以降（部活動を行っていない休日）	
実施時間	3時間程度	
利用料金	種目により設定	
実施種目 (予定)	スポーツ・文化芸術・学び体験（工作・実験等）など ※従来の部活動種目に限らず、様々な体験活動も検討	

## 5 中学校部活動の方向性について

### 教職員の負担軽減

教職員の業務は非常に多くなっており、教職員アンケートの結果からも平日、休日にも行われている部活動の負担軽減を進めることは不可欠な状況となっている。

### 教職員の活躍の場の創出

部活動顧問等の業務を負担と感じる教職員がいる一方で、部活動指導を希望する教職員もあり、部活動に対する考えは様々な状況。


各教職員の考え方を尊重する体制を検討する必要がある。

### 部活動の現状に即した地域移行

日進市内では、3/4の生徒が何らかの部活動に参加している。人口増加が継続する状況において、生徒数も増加傾向にあり、各中学校の部活動を一か所に集約することが困難。教職員の意識や活動状況に応じた地域移行を模索。

### 【具体的な検討項目】

- 教職員の意識を含めた地域移行の在り方の検討（平日・休日部活動の取り扱いなど）
- 集約型の地域クラブ活動、学校単位の地域クラブ活動など、部活動の活動状況に応じた柔軟な体制づくりの検討
- 地域クラブ活動を実施する場合の運営主体の検討

 令和6年度に実施する検討委員会において具体的な方針を決定する。

# 6 今後のスケジュール

